THE STATE OF THE WORLD'S CHILDREN 2013
世界子供白書2013

障がいのある 子どもたち

unite for children

unicef

世界子供白書 2013
英語版　　2013 年 5 月刊行
日本語版　2013 年 7 月刊行
著　：ユニセフ（国連児童基金）
訳　：公益財団法人　日本ユニセフ協会　広報室
本文監修：日本社会事業大学　特任教授　佐藤久夫
発行：公益財団法人　日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）
　　〒 108-8607　東京都港区高輪 4-6-12　ユニセフハウス
　　（電話）03-5789-2016　（FAX）　03-5789-2036
　　ホームページ：www.unicef.or.jp
印刷：（株）第一印刷所

The State of the World's Children
© United Nations Children's Fund（UNICEF）
May 2013

UNICEF, UNICEF House, 3 UN Plaza,
New York, NY 10017, USA
ウェブサイト：www.unicef.org（ユニセフ本部）

この白書は国連児童基金（ユニセフ）が 2013 年 5 月に発表し、（公財）日本ユニセフ協会が翻訳したものです。
文中の役職名、肩書き等は本書（英語版）編集時のものです。本書の無断転載・複製はお断りします。
転載をご希望の場合は、（公財）日本ユニセフ協会 広報室までお問い合わせください。

表紙の写真：
シリアの学校で、整列して教室に入る生徒たち（2007 年の写真）。
© UNICEF/HQ2007-0745/ Noorani

世界子供白書 2013

謝辞

本書は多くの方々ならびに組織のご協力により制作された。快く時間を割いてくださり、ご助言、ご尽力いただいたすべての方々、そして特に、以下の方々に編集・調査チーム一同より深く感謝申し上げる。

Vesna Bosnjak（International Social Services）；Shuaib Chalklen（国連障害特別報告者）；Maureen Durkin（ウィスコンシン大学）；Nora GroceおよびMaria Kett（ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ、Leonard Cheshire Disability and Inclusive Development Centre）；Nawaf Kabbara（アラブ障がい者連盟）；Lisa Jordan（Bernard van Leer Foundation）；Connie Laurin-Bowie（国際障害同盟）；Barbara LeRoy（ウェイン州立大学）；Charlotte McClain-Nhlapo（米国国際開発庁）；Helen Meekosha（Women with Disabilities Australia）；Peter Mittler（マンチェスター大学）；Roseweter Mudarikwa（Secretariat of the African Decade on Persons with Disabilities）；David Mugawe（African Child Policy Forum）；Ghulam Nabi Nizamani（パキスタン障害者団体）；Victor Santiago Pineda（ビクター・ピネダ基金）；Tom Shakespeare（世界保健機関）；Aleksandra Posarac（世界銀行）；Shantha Rau Barriga（ヒューマン・ライツ・ウォッチ）；Eric Rosenthal（Disability Rights International）；Albina Shankar（Mobility India）；Armando Vásquez（汎米保健機構）、以上の方々は外部諮問委員会の委員としてご協力いただいた。

Judith Klein（オープン・ソサエティ財団）：Gerrison Lansdown（無所属）；Malcolm MacLachlanおよびHasheem Mannan（トリニティ・カレッジ・ダブリン）；Susie Miles（無所属）；Daniel Mont（Leonard Cheshire Disability）；Diane Richler（国際障害同盟）、以上の方々には、主要論文の執筆者としてご協力いただいた。

Sruthi Atmakur（ニューヨーク市立大学）；Parul BakshiおよびJean-Francois Trani（ワシントン大学 ― セントルイス）；Nazmul BariおよびAmzad Hossain（Centre for Disability in Development）；Simone BloemおよびMihaylo Milovanovitch（経済協力開発機構）；Johan Borg（ルンド大学）；Megan Burke、Stephane De GreefおよびLoren Persi Vicentic（Landmine and Cluster Munition Monitor）；James Conroy（Center for Outcome Analysis）；Audrey Cooper、Charles ReillyおよびAmy Wilson（ギャローデット大学）；Alexandre Cote（国際障害連盟）；Marcella Deluca、Sunanda Mavillapalli、Alex Mhando、Kristy Mitchell、Hannah NicollsおよびDiana Shaw（Leonard Cheshire Disability/Young Voices）；Avinash De Souza（De Souza Foundation）；Catherine Dixon（ハンディキャップ・インターナショナル）；Fred Doulton（国連障害者の権利条約特別委員会）；Natasha Graham（Global Partnership for Education）；Jean Johnson（ハワイ大学）；Chapal KhasnabisおよびAlana Officer（世界保健機関）；Darko Krznaric（クイーンズ大学）；Gwynnyth Llewellyn（シドニー大学）；Mitch Loeb（米国疾病対策予防センター／全米保健医療統計センター）；Rosemay McKay（オーストラリア国際開発庁）；Amanda McRae（ヒューマン・ライツ・ウォッチ）；Sophie Mitra（フォーダム大学）；David Morissey、Sherzodbek SharipooおよびAndrea Shettle（米国国際障害者評議会）；Zelda Mycroft（The Chaeli Campaign）；Emma Pearce（Women's Refugee Commission）；Natalia Raileanu（キーストーン・ヒューマン・サービス）；Richard Rieser（World of Inclusion）；Marguerite Schneider（ステレンボス大学）；Morsheda Akter Shilpi（Organization for the Poor Community Advancement）；Silje Vold（Plan Norway）、以上の方々には、参考資料の執筆、ご助言および情報提供にご協力いただいた。

Tracy Achieng；Grace Okumu Akimi；Sophia Rose Akoth；Abeida Onica Anderson；Washinton Okok Anyumba；Beatrice Atieno；Ssentongo Deo；Ivory Duncan；Argie Ergina；Mary Charles Felix；Michael Salah Hosea；Amna Hissein Idris；Tiffany Joseph；Hannah Wanja Maina；Saitoti Augustin Maina；Dianne Mallari；Modesta Mbijima；Shida Mganga；Nicole Mballah Mulavu；Joseph Kadiko Mutunkei；Ann Napaashu Nemagai；Rachael Nyaboke Nyabuti；Alice Akoth Nyamuok；Sarah Omanwa；Benson Okoth Otieno；Nakafu Phiona；Shalima Ramadhani；Rosemarie Ramitt；Nambobi Sadat；Veronicah Shangutit Sampeke；Ladu Michel Seme；Josephine Kiden Simon；Muhammad Tarmizi bin Fauzi；Elizabeth Mamunyak Tikami；Shemona Trinidadのほか、Leonard Cheshire Disability Young Voices networkのファシリテーターが本書のために特別に実施した調査ならびにフォーカス・グループに匿名で参加した20名の若い方々に感謝する。

Bora ShinおよびMatthew Manos（veryniceDesign）には<www.unicef.org/sowc2013>に掲載するユニバーサル・デザインの解説画像をご担当いただいたことに感謝する。

ユニセフ各国および地域事務所と本部は、調査結果や写真の提供、文章の見直しや草稿へのコメントなどの面で、本書、本書に関連するオンライン・コンテンツまたはアドボカシー資料の制作に関わった。また、多くのユニセフ地域事務所とユニセフ国内委員会は、各言語版への翻訳、制作を行った。

以下の方々には、プログラム、政策、コミュニケーション、調査に関する助言とサポートにご協力いただいた。Yoka Brandt（副事務局長）；Geeta Rao Gupta（副事務局長）；Gordon Alexander（調査局・局長）およびその同僚；Nicholas Alipui（プログラム局・局長）およびその同僚；Ted Chaiban（緊急業務局・局長）およびその同僚；Colin Kirk（評価局・局長）およびその同僚；Jeffrey O'Malley（政策戦略局・局長）およびその同僚；Edward Carwardine（コミュニケーション局・副局長）およびその同僚。本書の編集にあたり、Rosangela Berman-Bieler（ユニセフのプログラム局障害者セクション・チーフ）およびその同僚にも密接なご協力をいただいた。

David Anthony（政策アドボカシーチーフ）；Claudia Cappa（統計・モニタリング・スペシャリスト）；Khaled Mansour（コミュニケーション局・局長、2013年1月まで）、およびJulia Szczuka（本書の副編集長、2012年9月まで）には惜しみなく知性と気力を注いでいただいたことに特に感謝する。

白書制作チーム

編集・調査

Abid Aslam（編集長）
Christine Mills（プロジェクト・マネージャー）
Nikola Balvin、Sue Le-Ba、Ticiana Maloney（調査担当）
Anna Grojec（「視点」編集担当）
Marc Chalamet（フランス語版編集担当）
Carlos Perellon（スペイン語版編集担当）
Hirut Gebre-Egziabher (主幹), Lisa Kenney, Ami Pradhan（調査補佐）
Charlotte Maitre (主幹), Carol Holmes, Pamela Knight, Natalie Leston, Kristin Moehlmann（原稿整理）
Anne Santiago, Nogel S. Viyar, Judith Yemane（編集補佐）

制作・頒布

Catherine Langevin-Falcon（出版部・部長）；Jaclyn Tierney（制作担当）；Germain Ake; Christine Kenyi; Maryan Lobo; Jorge Peralta-Rodriguez; Elias Salem

統計表

Tessa Wardlaw（政策戦略局、統計・モニタリング部・副部長）；David Brown; Claudia Cappa; Liliana Carvajal; Archana Dwivedi; Anne Genereux; Elizabeth Horn-Phathanothai; Priscilla Idele; Claes Johansson; Rouslan Karimov; Rolf Luyendijk; Colleen Murray; Jin Rou New; Holly Newby; Khin Wityee Oo; Nicole Petrowski; Tyler Porth; Chiho Suzuki; Andrew Thompson; Danzhen You

英語版デザイン：Prographics, Inc.
印刷　　：Hatteras Press, Inc.

まえがき

仲間として受け入れられ、自分の資質や才能を認めてもらうことを望まない子どもがいるだろうか。いや、そんな子どもはいないはずだ。子どもたちはみな、希望や夢を抱いている。障がいのある子どもたちも例外ではない。そして、すべての子どもたちにはそれぞれの夢を実現する正当な機会が提供されるべきある。

そうした機会が提供されたならば、障がいのある子どもたちはより一層大きな力を発揮してインクルージョン（誰もが受け入れられる社会）を阻む障壁を乗り越え、社会の平等な構成員として自らにふさわしい場所を見つけ、コミュニティの生活を充実させることができる――今年の世界子供白書では、それを実証する若者や親たちによる寄稿文を紹介している。

しかし、障がいのある子どもの多くにとって、参加する機会すら存在していないのが現状だ。多くの場合、障がいのある子どもたちは資源やサービスの面で、後回しにされてしまうからだ。特に資源やサービスが十分でない場合はそうである。そして障がいのある子どもたちは、あまりにもしばしば、哀れみの対象となるか、ひどい場合は差別や虐待の対象となってしまう。

障がいのある子どもたちや若者が直面しているこうした機会の剥奪は、子どもたちの権利と公平の原則を侵害している。それは、最も弱い立場にあり、社会から排斥された子どもたちを含む、すべての子どもたちの尊厳と権利に本質的に関わることなのである。

本書に述べるように、障がいのある子どもたちのインクルージョンを社会で実現することは可能である。しかし、そのためにはまず認識を改め、障がいのある子どもたちはほかの子どもたちと同等の権利を持つこと、慈悲の恩恵を受ける対象にとどまらず、変革や自己決定を行う主体になれること、政策やプログラムの策定に際して障がいのある子どもたちの意見に耳を傾け、配慮しなければならないことを理解する必要がある。

私たちは意思決定のための十分なデータ収集を怠ることで、障がいのある子どもたちを排斥する原因を作っているとも言える。そうした子どもたちに配慮しなければ、彼らが社会の中で受けるべきサービス等について、考慮される機会をも剥奪することになるのである。

幸運にも、公平性の面では問題があるものの、状況は前進しつつある。本書は、障がいのある子どもたちが当然の権利であるサービスを正当に利用できるようにする上での課題を考察するだけではない。さらに進んで健康、栄養、教育、緊急対策といった分野で期待できそうなイニシアティブ、それらすべての分野の政策や運営を改善するために必要なデータ収集や分析を可能にすると思われるイニシアティブについても検討する。またその他の章では、障がいのある子どもたちのインクルージョンを推進するために適用できる原則やアプローチについて述べる。

世界のどこかで、歩くことができないから遊べないと言い聞かされている子がいる。目が見えないから学べない、と言い聞かされている子がいる。しかし、この子にも遊ぶ機会が提供されるべきなのである。目が見えない子が、そして、すべての子どもたちが、読み、学び、社会に貢献することができたならば、私たち全員がその恩恵を受けることができるからである。

前途には困難な課題が待ち受けているだろう。しかし、子どもたちは無意味な制約を受け入れないものである。私たちもまた、無意味な制約を受け入れてはならない。

アンソニー・レーク
ユニセフ事務局長

目次

謝辞 …… ii

まえがき
アンソニー・レーク ユニセフ事務局長 …… iii

第1章
序論 …… 1
社会的排斥からインクルージョン（誰もが受け入れられる社会）へ …… 1
統計について …… 3
行動のための枠組み …… 3

第2章
インクルージョン（誰もが受け入れられる社会）の基本 …… 11
態度・姿勢を変える …… 12
わたしたちにできること（It's About Ability） …… 13
子どもとその家族への支援 …… 13
コミュニティに根ざしたリハビリテーション …… 16
支援技術 …… 17
ユニバーサル・デザイン …… 18

第3章
基礎を強く …… 23
インクルーシブな保健 …… 23
予防接種 …… 23
栄養 …… 24
水と衛生 …… 25
性と生殖に関する健康およびHIV／エイズ …… 26
早期発見と支援 …… 26
インクルーシブな教育 …… 27
早く始めること …… 28
教師と共に …… 29
両親、コミュニティ、子どもたちを参加させる …… 32
責任範囲 …… 33

第4章
保護に不可欠な要素 …… 41
虐待と暴力 …… 41
施設と不適切なケア …… 42
インクルーシブな司法 …… 43

第5章
人道的な対応 …… 49

第6章
子どもの障がいの評価 …… 63
進化する定義 …… 63
全体の中で障がい※を捉える …… 64
データ収集 …… 65
アンケートの設計 …… 66
目的と結果 …… 67
前進に向けて …… 68

第7章
行動計画 …… 75
条約を批准し、履行を …… 75
差別と闘う …… 75
インクルージョンを阻む障壁を取り除く …… 77
施設収容に終止符を …… 80
家族を支援する …… 80
最低基準より上を目指せ …… 81
子どもへの支援サービスを上手に調整せよ …… 81
意思決定にあたっては障がいのある子どもたちの意見を …… 84
グローバルな約束、地元で検証 …… 85

※本書では、法令・条約の公式名称を除き、「障害」を「障がい」と表記しています。

焦点

障がいのある子どもたちに対する暴力…… 44

リスク、立ち直る力および
インクルーシブな人道的措置…… 52

戦争の遺物：爆発性戦争残存物（ERW）…… 54

教訓…… 69

スクリーニングから評価へ…… 70

視点

先駆者からインクルージョンの提唱者へ
ナンシー・マグワイア…… 4

先天性白皮症、差別、迷信とともに生きる
マイケル・ホセア…… 6

良い思い出が欲しい
ニコラエ・ポライコ…… 8

聴覚障がいのある若者にとっては「言語」が鍵
クリシュネア・セン…… 20

私の息子、ハニーフ
モハマド・アブサール…… 30

新しい形の「普通の生活」
クレア・ハルフォード…… 34

調整、柔軟な適応、エンパワーメント
ヤヒア・J・エルジク …… 38

施設における隔離と虐待
エリック・ローゼンタール、ローリー・アハーン …… 46

大きなゴールを目指し、一歩ずつ進むことが肝要
ケイリー・マイクロフト…… 60

障がいのある先住民の子どもたち：
隠すことからインクルージョンへ
オルガ・モントゥファ・コントレラス…… 72

教育と雇用への門戸開放を
アイボリー・ダンカン…… 78

技術、態度・姿勢の向上、著作権法の改善により
「深刻な書物飢饉」の解消を
カルティック・ソーニー…… 82

障がいのある子どもたちと普遍的な人権
レニン・ヴォルテール・モレノ・ガルセス…… 86

上記以外の「特集」や「視点」のエッセイもオンライン（www.unicef.org/sowc2013）でご覧いただけます。

図表

初等教育修了率（推定）…… 12

コミュニティに根ざしたリハビリテーション（CBR）… 16

支援技術を使った製品…… 19

障がいのある子どもたちと中等教育…… 42

後回しになる子どもたち…… 43

紛争による地雷や爆発性戦争残存物の影響を
大きく受けた国の子ども死傷者数（2011年）…… 56

被害が最も甚大な国での子どもの死傷者
（1999〜2011年）…… 57

子どもの死傷者（爆発物の種類別）…… 59

４つのケーススタディ：何らかの障がいを
報告した人の割合…… 64

「障害者の権利に関する条約」と選択議定書：
署名と締結（批准・加入）の状況…… 76

参考文献…… 88

統計表 …… 93

概要…… 94

５歳未満児死亡率の順位 …… 99

表1. 基本統計 …… 100

表2. 栄養指標 …… 104

表3. 保健指標 …… 108

表4. HIV／エイズ指標…… 112

表5. 教育指標 …… 116

表6. 人口統計指標 …… 120

表7. 経済指標 …… 124

表8. 女性指標 …… 128

表9. 子どもの保護指標 …… 132

表10. 前進の速度 …… 136

表11. 青少年指標 …… 140

表12. 公平性指標 ― 居住地域 …… 144

表13. 公平性指標 ― 世帯の豊かさ …… 148

表14. 子どもの早期ケア指標 …… 152

条約、選択議定書、署名および批准

本報告書の用語に関する注記…… 154

ブラジルの水辺で楽しいひとときを過ごす、脳性マヒの少年ビクター（13歳）。　© Andre Castro/2012